

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4792200018		
法人名	社会福祉法人 祥永会		
事業所名	グループホーム よみたんふくぎの里		
所在地	沖縄県中頭郡読谷村字喜名2272番地4		
自己評価作成日	平成 30年 9月 11日(火)	評価結果市町村受理日	平成30年 11月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/47/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=4792200018-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/47/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=4792200018-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階
訪問調査日	平成 30年 9月 11日(火)

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ふくぎの里は、自分や自分の家族が受けてみたいと思うサービス。常にご利用者とご家族の立場に立ったサービスを念頭において日々サービスを提供しております。平成29年度は、品質目標を「施設サービス計画の見直しと施設サービス計画書(サービス内容・個別サービス)に沿ったサービスを提供します。」とし、毎月の品質目標実施計画を実施。ご利用者が事業所の中だけで過ごすのではなく、地域とつながりながら生活できるよう日常的な外出支援や年間行事、余暇活動等を施設サービス計画書に明記し個別援助の一環として実施してまいりました。ご利用者の活動も充実し笑顔に溢れ楽しく、穏やかに過ごしていただけたと感じております。今年度は、品質目標を「①ふくぎの里ケア会議を開催し、施設サービス計画書(サービス内容・個別サービス)の評価を実施し課題を検討し実践します。②ふくぎの里行事計画に必要なスキルを習得し実践します。」とし取り組んでおります。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ふくぎの里では、毎食職員により手作りをしている。利用者と職員が同じテーブルにつき食事を共にしている。又、利用者の誕生日には、担当の職員がケーキを焼くことを定例化しており、食を大切にすることをケアが行われている。居住空間は、落ち着いて、おだやかな居心地良い雰囲気となっている。居室以外の居場所が複数ある。家族や知人等の訪問者との面会場所として、利用者の過ごす場所として機能している。行政との連携で、年に1回地域のネットワーク機関の訪問を受け入れることにより、地域への情報発信を実施している。システムを導入し、職員の事務処理の軽減化、情報共有が深まり、情報の活用についての意見交換を行い、介護計画に反映することにより、職員の資質向上につながっている。外出支援も充実しており、利用者の要望を実現する取り組みを行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は日頃職員が目に入る場所、玄関に提示しており、いつでも職員が周知できるようにしています。日々のケアに気になる点があれば、その度に職員へ理念に基づき、実施できているか確認しており「その人を中心とした介護」を意識しながらケア提供に努めています。	毎年1回、全体会で職員に対して理事長の訓示があり、法人全体の理念共有を実施している。事業所独自の理念は、地域密着型の意義を踏まえており、職員は理念を踏まえ、利用者を中心とした介護を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	隣の保育園児との日常的な交流、行事加等を通して地域の一員として入居者と共に交流する事に努めています。	保育園が隣接する立地環境を活かし、日常的な交流がある。自治会の行事に積極的に参加し、合同で敬老会を実施している。又、地域包括支援センター主催で、地域代表者の訪問を定期的に実施している。	
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者との買い物時等に地域の方々と触れあいながら、認知症の方への理解をしていただいております。人材育成の貢献として実習生の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、事業計画や品質目標、利用者入居状況、行事等の報告。利用者や委員、参加者から評価を頂いていることや、ご意見や感想を伺いながら話し合いサービス向上に活かしています。	奇数月の最終金曜日に会議日程を設定している。構成員は、利用者、家族、行政(地域包括支援センター)、地域住民、知見者で構成されている。事業計画、事業報告を日常の活動の写真を活用し具体的に実施している。構成員からは、認知症についての質問や、防災訓練への参加表明、地域への情報発信等の発言があり、質問についての回答、参加表明への謝辞、改善策が報告されている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者を運営推進会議の委員に任命し参加して頂くことでご意見や情報交換としている事や必要時、役場福祉課窓口へ訪問し連携を図っております。また、保険者の職員研修として、施設見学と意見交換会を実施しております。事業所の現状や課題を報告し、連携に努めております。	運営推進会議の構成員に、福祉課職員が任命されており、毎回出席している。会議において、情報交換を行っている。 毎年、村が主催する高齢者入所施設訪問事業があり、村内の消防、警察、民生員、老人クラブ、公民館連絡協議会により構成された訪問者を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠はせず、安全に配慮し自由な外出が出来るようにしています。帰宅願望ある入居者に対しては要望を受け入れ、屋外へ出て気分転換を図る事や、人員や時間帯を考慮して家族面会を依頼する等、状況に応じて対応し束縛のない生活を支援しております。	身体拘束についての社外研修に職員を派遣し参加した職員による社内研修を実施している。指針の策定も整備されている。職員の言葉遣いについて、否定的な声掛けではなく、肯定的な声掛けを意識し、取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症実施者研修への参加等で制度の活用方を学んでいる事や、虐待についてマニュアルを作成。勉強会を行っています。	社外や社内の研修を通して、学びを深め、毎月開催される職員ミーティングで共有を図っている。認知症連絡会から発信されるeラーニングの活用している。介護者の心のゆとりが保てるような対応を管理者は配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実施者研修への参加等で制度の活用方を学んでいる。今後は、定期的に勉強会を行い、理解を深めるようにしたい。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明をし、納得していただいた上での利用開始となっています。また、改定時も都度改定部分について十分に説明し、不安や疑問点を訪ねた後に同意を頂けております。ご利用者本人の説明は理解力や精神的負担を考慮し、家族にゆだねています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の希望には可能な限り応え、ご家族が面会にいらした際に、いつでも意見が記入できるよう玄関に意見箱を設置しております。又、ご家族に積極的に話しかけて得た情報や意見をシステムへ記載し職員間で共有する体制ができています。	wisemanシステムを導入しており、利用者情報の一元化を実施している。利用者の要望、家族の要望等について記録し、職員間で共有している。病院受診時の処方箋受け取りに変更や使用する排泄用のパットの変更等に活用している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と共にミーティングを行い、意見を求める機会を設けており、その場で意見に対する検討を行い意見が日々の支援、運営に反映されるように取り組んでいる。月一回は職員ミーティングを行い、会議録を代表者へ報告しています。	システムの活用により、職員の力量向上に取り組んでいる。経験3年以上の職員については、利用者の担当制を採用しており、入力された利用者の日々の情報を分析し、定期的なミーティングでケアマネージャーと検討する機会を設けている。ミーティング内で提案された意見について、運営に反映している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事評価を行い、職員が向上心を持ち就業できるように働きかけている。勤務希望は出来るだけ要望通りに受け止めるように努めている。また、職員休憩室やトレーニング室を新設し就業環境を整備していただきました。	人事評価についてもシステム化されており、職員にとってもわかりやすい項目となっている。休憩時間は、計画的に実施している。職員休憩室、トレーニング室が整備されている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育訓練計画を作成し教育担当者を決め、OJTや社内研修実施している。介護職員社外研修に参加、実務者研修参加を導入し、情報を得る機会や資格習得の機会を提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し介護研修会へ参加する事で事業所以外の人と親睦を深め意見や経験に活かして職員へ情報を伝達しています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人へは、傾聴・受容に努め、笑顔で接し意志表現しやすい環境を作る様心掛けています。入居者に対しての不安やニーズは出来るだけ時間をかけ、お話を聞く時間を設けています。また、事前自宅訪問を実施しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へは、受付段階から入居に対しての不安やニーズはできるだけ時間をかけ、お話を聞く時間を設け、気軽に訪問できる雰囲気作りに努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み後、直ぐに入居していただくのではなく、現在の自宅にて生活を送れているのであれば、在宅生活が継続できるよう他事業所の紹介とその時必要としているサービスを紹介する等支援しております。 (入居にあたり判定会議を開催し入居の必要性を判断しています)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に寄り添いながら、野菜の皮むきや食事の仕込み・調理までの行程や洗濯物干しやたたむまでの家事等を無理のない程度に協力して頂きながら、入居者の力を引き出す努力や、出来ている事を継続できるように見守る環境作りを尊重していく関係作りをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々暮らしの中で本人とご家族との絆を大切にしながら支援し、誕生会や特別な行事には参加されています。入居者の日々の様子や職員の思いを伝える事で信頼関係が気付いていると実感しています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人は築いてこられた馴染みの関係を大切にし外出や面会を受け入れ、心地良い環境を作っています。また、入居者から馴染みの人に会いたいと要望があればお宅や事業所等を訪問し職員が調整役となり、途切れの無い環境を支援しております。	入居前から通っている、馴染みの美容室に継続的に通っている利用者がいる。面会者も多く家族以外の知人の訪問により、馴染みの関係を継続している。外出時には、利用者の要望を優先し、自宅や関係機関等に外出をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの合性を把握し、利用者同士会話が出来る環境作りに努めています。折り合いが合わない利用者に対し環境に配慮して席の工夫をし見守りを行っている。誕生会等の行事を通じながら、職員が仲介に入りコミュニケーションを図っております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、他事業所に面会やご家族へ気軽に訪問していただけるよう、声掛けしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意見を把握するように努めており、意志疎通が困難な方に対して日々の会話や行事の中から思いを引き出せるよう支援しています。意向、希望については職員1人の意見に偏らないよう会議の中で議題にしたり、ご家族と相談しながら検討しております。	入浴時や食事等、日々の関わりの中で利用者一人ひとりの言葉や表情から思いや意向を汲み取りその都度介護記録等に記録し、サービス担当者会議の中で家族や担当者と確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規入居の際、ご家族から得た情報や、可能な限り自宅へ伺い住環境を確認、記載し職員間で共有し、少しでも馴染みの暮らしが提供出来るよう支援しています。日々の生活の中で、本人が話す内容に初めて聞いた事はご家族へ確認をし、把握するよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの行動や言動を記録に残し、職員全員が把握できるよう申し送りを行い、より良いケアが提供できるように努めています。心身の状態を把握し、出来ないと決めつけず安易に介助するのではなく、出来る事を見つけ支援するように努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者がより良く暮らす為に、職員やご家族とケアのあり方について連携を図り、3ヶ月ごとのモニタリングやケアカンファレンスを行い、発生した課題はご家族と職員間で話し合いを行い、敏速に対応出来るようプランを作成しています。	個別の計画に基づいた入力画面に日々のケアの状況をその都度パソコン入力する事で、サービス内容及び計画・意向の確認が行なえ、前回との比較もできる為、次回の計画にもつなげる事ができている。毎月担当職員でケア会議を開催し利用者全員の状況報告を個別に行なっている。3ヶ月ごとのモニタリングと状態変化時には家族も交えたサービス担当者会議を開催し共通理解を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケアの実践を記録とし毎月実践結果を評価し課題を抽出、検討することができます。評価結果や課題抽出、改善については、会議や申し送り等で職員間にて共有しながら介護計画の見直しにつなぐ事ができています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	生活・暮らしの視点から本人の希望に沿える事を重視して実践に取り組み、買い物等の外出希望には状況に応じた柔軟な対応が出来ています。		



自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、本人の意思を尊重し近隣のスーパー等の地域資源を必要に応じて利用できるように支援しております。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族に応じ、それぞれかかりつけ医で受診対応しています。医療に関する困難な事例等は直接主治医の病院に管理者が出向き相談しています。また定期的に往診してもらい、利用者の変化等を主治医へ相談を行いながらホームとの良好な関係が構築でき、本人やご家族の安心に繋がっております。	利用者及び家族が希望するかかりつけ医を受診しており、利用者全員がかかりつけ医を持っている為、受診時に健診も行なっている。受診時には職員から家族に口頭で情報提供し、詳細が必要な場合は書面にて医療機関へ情報提供をしている。通院が困難な利用者は訪問診療を利用し適切な医療が受けられる工夫をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しております。24時間の連絡体制も整っております。適切な医療、介護が受けられるよう支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、病院側とケアの方法をはじめ、ご本人様の情報を共有しながら、主治医との連携を図り、早期退院に向け取り組んでいます。入院によるダメージを極力防ぐため管理者や職員が面会を心掛けに努めております。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の説明で、事業者が対応できる現状を説明を行っております。終末期の対応については指針を作成し、ご家族へ同意を頂いております。今年度も看取りの実践に取り組んでおります。	終末期指針・同意書、終末期ケア依頼・受託書を作成しており、状態変化時に家族に説明し、主治医から終末期についても家族に説明が行なわれている。終末期ケアに入る前に勉強会を開催しており、月1回のケア会議や毎日のミーティングの中でケアについて職員で話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、電話近くに設けています。緊急時、看護師へ24時間連絡が取れる体制をとっています。また、勉強会を開催したり、職員へは、消防署が救命講習を開催する場合においては、参加してもらい、緊急時には不安なく対応出来るよう努めております。	/	/
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年に2回実施しています。防災訓練の際消防士指導の下、実際に消火器を使用し消化訓練を実施。訓練に近隣施設職員や地区長の参加をいただき協力体制を築いています。法人を含めて職員の家が近い順の連絡もを設け、火事を起こさない事を最優先に災害対策に取り組んでおります。	昼夜を想定で年2回、消防署の協力を得て防災訓練を実施している。訓練時には併設事業所職員や法人職員、隣接している保育園職員、区長が参加している。1週間程度の調理に必要な食料品は保存しているが、水は浄水器からその都度入れており保存用の水は無い。	水等食料品の備蓄が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、認知症という病気を理解しながらその人の人格や誇りを大切に言葉使いに配慮します。また、日頃の生活を過す中でプライバシーにも細心の注意を払うように心掛けております。	自宅で生活していた時と同じように過ごせるように、本人の気持ちを大切に、居室での過ごし方や日々の整容、昼夜の衣服の選択等を利用者が自己決定できるケアに努めている。利用者一人一人の状態に合わせ、日頃から丁寧な言葉かけで対応をしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活からご本人の思いをお伺いするようにし、思いを表現出来ない方には、表情やサインを見逃さないように気を付け、思いや希望が引き出せるように働きかけ自己決定できるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活スタイルを大切にし、その方がどう暮らしたいのか、何を必要としているのかを理解し、職員本意ではなく利用者本意を心掛け支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室や洗面台に鏡とブラシを置き、居室にて身だしなみが整えられるよう支援している事や、日々の着替えや入浴の際に利用者と共に洋服を選ぶ等、本人の好みを大切にしております。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と一緒にテーブルを囲み食事をいただいております。季節の行事に応じた食事を提供やご利用者の希望する食事をメニューに取り組み提供する等の工夫をしております。また、時にご利用者の要望するお食事がいただこうよう外食(ランチバイキング等)を提供しております。	法人が立てた献立に合わせて、当日勤務の介護職員と料理が得意な利用者が3食キッチンで調理し出来たての食事を提供、職員も一緒に同じメニューを摂っている。咀嚼する事で機能維持につながると考え、利用者の状態に合わせてできるだけ常食に近い形態を提供している。また、食事の準備、味付け、後片付けなどもそれぞれ得意な利用者が職員とともにこなしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人内の管理栄養士により献立作成の基で、バランスの良い食事を提供しています。毎食の食事量、水分摂取量や月1回の体重測定から記録し栄養状態の管理を行っています。一人ひとりに合わせて食事形態や容器等の工夫をしながら支援しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、実施方法や場所などは、個々の身体状況に合わせて毎食後実施しています。口腔ケアに認識が低い入居者は時間をずらしたり無理はせず声掛けの工夫を行っています。また、夜間は用具を洗う等、定期的な用具の交換を行い、清潔保持に努めております。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在、ご利用者は、オムツ使用者はなく、パットに布パンツ(テナパンツ)を使用しております。新規入居や状態の変化に合わせて一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を取り組んでおります。排泄で失敗してもご本人の自尊心を損なわないような声掛けや、排泄スタイルを崩さず、気持ちよく排泄できるように工夫しております。	入居前のアセスメントや状態変化に合わせて職員間で情報共有をし、入院が長く排泄動作が不安定な利用者に対して職員2人で支援するなど、現在日中は利用者全員がトイレで排泄できるように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の性状観察を行い、職員間で情報を共有し、便秘や下痢の原因を探り、食事の工夫や水分の飲用量の調整を行っています。また適度な歩行運動を取り入れ予防に取り組んでおります。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のお断りが強い方へはチームアプローチにて支援しております。曜日は決めておらず、入居者の希望に応じての入浴支援が可能です。最低週2回は入浴を支援し、入りやすい環境や声掛けを工夫しながら対応しています。気持ち良さが残るように入浴後のフォロー(爪切り、耳かき、好きな飲み物)を提供しております。	基本は週2回個別浴で実施しているが希望があればその都度入浴できるようにしている。リラックスしてもらうために音楽を流したり、座位保持が困難な利用者は2人で支援している。入浴を好まない利用者に対しては時間や職員を変えて気持ち良く入浴ができるように工夫している。脱衣所には洗剤等の掃除用品が目に見えるように棚に並べられている。	洗剤等の保管方法の工夫が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安で眠れない方へ付き添い等の工夫や自然に入眠してもらう等、状況に応じて対応しています。入眠前の居室の室温調整にも配慮し、温度・湿度を調整し入居者が快適に過ごせるよう整えております。	/	
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者のお薬説明書をケース記録に整理いつでも職員が取り出し、確認出来るようにしています。また、追加、新しい薬の処方がある際は、申し送りを実施し服薬変更、服薬目的を周知しております。	管理者が処方薬の受取、各居室担当者とともに利用者個々のボックスに仕分けをしている。当日の勤務シフトで担当者が1日分の薬をさらに個別のボックスにセットし、業務マニュアルの中で当日の勤務シフト別に各利用者の投薬の指示がある為、投薬後の記録まで行ない重複チェックができるようになっている。職員は全員が処方薬の内容を確認しており管理者はその都度職員に確認し服薬内容の意識付けをしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の個別援助計画として、「できる事」「強み」を活かし、家事を援助を実践していただいております。生活の一部として定着しており、役割をもっていただき、楽しみながら生活していただいております。	/	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事に参加しております。遠足等にご家族やボランティアの協力をいただき出かけられるよう支援しています。外出支援では、入居者を外食(ランチバイキングや市場見学等)や、年間行事(桜花見、初詣、遠足、社会見学等)に出かけ、楽しみ、気分転換につなぐことができいております。	外出の希望がある利用者にはその都度施設周辺を散歩したり、月1回は利用者が一人ずつ交代でその利用者の自宅周辺の商店に職員と一緒に買い物に出かけたり、2ヶ月に1回は数人の利用者と職員で外食に出かけている。また、遠足・花見・初詣等の年間行事は法人のボランティアの協力を得て普段外出が困難な利用者も全員で出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの入居者にご銭能力の違いがある為、個々のご家族と相談した上で管理方法を選択しています。自身で管理している方や、必要な際にご家族に持って頂く等、ご家族の理解を頂いた上で支援しています。買い物の際はの能力に応じ自分で支払いする事を援助しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	通信の使用制限はなく、電話の希望があれば対応し、難聴の場合は職員が取り次ぎし、筆談等工夫しながらコミュニケーションを図っており、必要な場所に応じて支援できるようにしております。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備として、キッチン、居間、リビング、居室、廊下の大改装を実施し、入居者、ご家族より大変喜ばれています。ご利用者と中庭で育てた観葉植物をリビングやローカ、談話室、玄関等に飾り癒しの空間づくりや季節に合わせた水彩画を飾り居心地よく過ごせる家庭的な雰囲気を提供しております。	キッチンの近くに食卓テーブル、ソファ、畳間が設置されており利用者それぞれが好きな場所で過ごしている。施設の中心にある中庭で観葉植物を育て、廊下やリビングにも育てた観葉植物が飾られている。その場にいる利用者に合わせてテレビか音楽をつける等心地よく過ごせるように配慮している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の希望や本人の立場になって観察しながら環境を整えています。環境の変化後は、入居者の観察を行い反応を記録して対応しています。リビングや居室、談話室を活用しゆったりしていただける環境作りに取り組んでおります。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、自宅で使い慣れた家具等がありましたら使用できるよう私物の持ち込み等をご家族へ促しております。主な持ち込み物としては、ご家族の写真、布団、テーブル等の持ち込みとなっています。入居後は、担当職員にて、本人が安心して過して頂けるよう環境作りに努めております。	全居室にベッドとタンス、洗面台が備え付けられており利用者に合わせて家具のレイアウトがされている。居室によって、フローリングのみ、畳のみ、フローリングと畳を備えた間取りとなっており、窓の大きさの違いや掃き出し窓の有無も異なる。利用者はテレビや使い慣れたテーブルセットを持ち込んだり、家族の写真等、好みの飾りつけがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の気付きを共有し、一人ひとりの身体状態に応じて、自立を妨げないようベッドや家具を配置して環境整備に努めております。		

## 目標達成計画

作成日:平成 30年 10月 30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対策 災害時の保存用の水がなく、水等の備蓄が望まれる。	○災害対策として、水の備蓄を保存することができる。	○備蓄用飲料水を購入。保管場所を地下リネン庫とし保存します。	1ヶ月
2	45	○入浴を楽しむ事ができる支援 着脱室に洗剤等の清掃用品が目に見えるように棚に並べられている。洗剤等の保管方法の工夫が望まれる。	○入浴を楽しむ事ができる支援として、洗剤等の保管方法の工夫ができる。	○洗剤等が目につかないよう、布等を活用し保管します。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。